

2級第14回 学科試験問題傾向分析と今後の対策

【総評】（第13回との比較）

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲ごとの出題数は、前回と同じである		①②③④⑤参照
B	2級・1級の過去問と同じ内容・趣旨の出題が出されている	問1 問20 問36 問47等	①②③④参照
C	受検者になじみのない分野や用語の出題がみられる	問10 問46等	①②③④参照
D	細かい知識・数字や各論に踏み込んだ内容、「ひっかけ問題」的な出題が多い	問3 問6 問24 問27等	①②⑤参照
E	これまで出題されていない分野から、初めての出題がみられる	問12問19 問39 問42 等	①②⑤参照
F	日本語の「語感」や前後の問題で正解肢がわかる出題がみられる	問5と問47 問7と問8 問30 等	⑤参照

【科目・範囲ごとの出題数（ ）は第13回からの増減）、難易度】

科目	範囲	出題数（ ）	難易度
1①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	2（±0）	難・中が各1問
1②	キャリア・コンサルティングの役割の理解	1（±0）	難が1問
1③	キャリア・コンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2（±0）	易と中が各1問
2①	キャリアに関連する理論の理解	4（±0）	難と易が各1問 中が2問
2②	カウンセリングに関連する理論の理解	3（±0）	難が2問、易が1問
2③	自己理解に関する理解	3（±0）	易が2問、中が1問
2④	仕事・職業に関する理解	3（±0）	中が1問、易が2問
2⑤	職業能力開発に関する理解	2（±0）	難・中が各1問
2⑥	雇用管理（人事管理・労務管理）に関する理解	3（±0）	難が1問、易が2問
2⑦	労働市場に関する理解	2（±0）	中・易が各1問
2⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2（±0）	中が2問
2⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1（+1）	易が1問
2⑩	メンタルヘルスに関する理解	3（±0）	易が3問
2⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	3（±0）	中が1問、易が2問
2⑫	転機に関する理解	1（±0）	易が1問
2⑬	相談者の典型的・個人的特性に関する理解	1（±0）	易が1問
3①	基本的スキル	3（±0）	難・中・易が各1問
3②	相談実施過程において必要なスキル	3（±0）	中が1問、 易が2問
4①	キャリア形成、キャリア・コンサルティングに関する教育、普及活動	2（±0）	易が2問
4②	環境への働きかけの認識と実践	2（±0）	難と易が各1問
4③	ネットワークの認識と実践	1（±0）	易が1問
4④	自己研鑽・スーパービジョン	2（±0）	易が2問
4⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1（±0）	易が1問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン（70 点）を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する。
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい数字」にとられるよりも、「2 級キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、基本的かつ基礎的知識を中心に習得する
③	「過去問集」とともに「キャリアの赤本」を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」や内容を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答（例：必要がない、必ず、すべきではない、活用されてはいない等）発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしない方法を体得する 例：「最適な」「だけ」「例外はない」「のみ」「一切」・等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意！試験の際はその語彙に注視する